



# 生活クラブ風車



# 夢風News

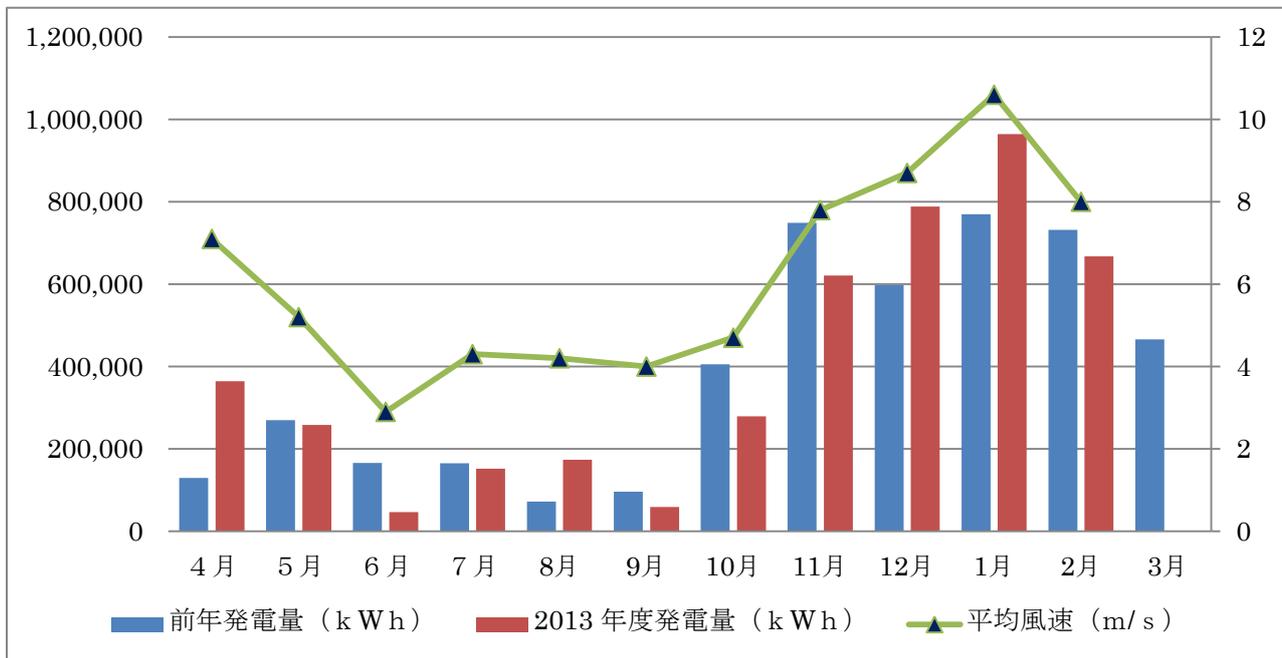
Vol.21

●発行 2014. 3. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

## ■ 風車の発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	364,062 【281.0%】	7.1	25.4	10月	279,036 【68.9%】	4.7	18.8
5月	257,970 【95.6%】	5.2	17.4	11月	620,896 【82.9%】	7.8	43.3
6月	46,516 【28.1%】	2.9	3.3	12月	788,121 【131.8%】	8.7	53.2
7月	151,543 【92.0%】	4.3	10.2	1月	964,320 【125.3%】	10.6	65.1
8月	173,115 【241.3%】	4.2	11.7	2月	667,295 【91.2%】	8.0	49.9
9月	58,922 【61.3%】	4.0	4.1				



- ・にかほ市では今年は積雪も少なく、2月4日、毎年恒例の金浦山神社の鱈を奉納する「掛け魚まつり」がおこなわれました。金浦山神社は「夢風」の建設安全祈願を行った神社です。
- ・夢風は、今月も順調に稼働し、667,295 kWhの電力を発電しました。
- ・東北電力の要請による解列が2回ありました。

## ■「再生可能エネルギーフォーラム in 埼玉」報告 生活クラブ埼玉 小林孝行（組織部長）■

3/16（日）午後、埼玉大学を会場に『再生可能エネルギーフォーラム in 埼玉～埼玉の電気はおひさまと森で～』を開催致しました（主催：生活クラブ埼玉、埼玉県市民ネットワーク）。当日は組合員のほか、県内の消費者団体はじめ市議や県議など 200 名ほどの参加があり、条例制定に向けた運動の第一歩を踏



み出しました。

第一部の基調講演では、吉原毅氏（城南信用金庫理事長）より「信用金庫は地域を守り、地域を幸せにすることこそが使命であり、生活協同組合と共通するところがあります」との話しからはじまり「脱原発は必然のことであり、原発に頼らない安心できる社会の実現に向けて、再生可能なエネルギーへのシフトを進めていく事が大切です」との心強いメッセージを発信して頂きました。その後を受けて、大河原雅子さん（元参議院議員）より国のエネルギー政策と絡め、再生可能エネルギーの社会的価値や新たな産業としての可能性、さらには自治体が条例を制定する意義を伝えて頂きました。



第二部では、生活クラブ埼玉と埼玉県市民ネットワークが発起人となり、条例制定に向けた「連絡会」発足の主旨提案を行い、意見交換を行いました。意見の大筋は、埼玉県が条例制定することは当然の責務であるとしつつも、合意形成を踏っていくのは決して平坦ではないとのこと。また、条例制定が可決されれば終わりというものでもなく、それからが大きな課題でもあるとの指摘もありました。

さて今回のフォーラムは、地域の特性を活かした再生可能な自然エネルギー導入を促進するため埼玉県内の団体などと連携し、再生可能エネルギーを拡げるための埼玉県条例制定に向け、取り組みを開始する事にあります。4月下旬には正式に「埼玉県省エネルギー・再生可能エネルギー促進条例」の制定を求める連絡会を発足、9月の埼玉県議会への請願に向けた署名活動の取り組みを開始いたします。

### 【提案主旨】

1. 昨今問題となっています異常気象の本質的な解決策は、私たちの使うエネルギーを大幅に減らしながら、化石燃料から再生可能な自然エネルギーへのシフトを進めることが重要です。
2. 埼玉県は電力の一大消費地であり全国 5 位（平成 20 年）に上る電気を使用しています。一方で埼玉県は晴天日数日本一で森林資源も豊富な自然エネルギーの宝庫であります。自然エネルギーは無尽蔵でありしかも原発や火力発電などに比べて安全です。
3. これらの状況を鑑み、今こそ私たちは、地域の特性を生かした再生可能な自然エネルギーの導入を促進し、市民が自治する社会へとつなげていきます。
4. 埼玉県内の協同組合をはじめ市民団体や事業団体とのネットワークを構築します。

ネットワークを主体に埼玉県に対し「\*埼玉県省エネルギー・再生可能エネルギー促進条例(案)」の制定を求める運動へとつなげます。

## ■にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会 第2回幹事会を開催■

3月22日（土）、にかほ市と生活クラブ・GF秋田との連携推進協議会の幹事会を行いました。

2014年度の協議会の活動方針・計画について、にかほ市と生活クラブ組合員との交流計画や、特産品の取り組み、新たな夢風ブランド消費材の開発の検討、小水力などの自然エネルギーの連携の可能性について、協議を行いました。

交流計画では、相互理解を深める取組として、にかほ市の職員の方や生産者の方々、市民の方々にご参加いただいて、生活クラブについての学習会を7月5日に開催することとしました。

また、夢風を縁としたにかほ市と生活クラブの地域間連携を表す消費材として、夢風ブランドの開発にチャレンジすることとし、協議会終了後に特産品の生産者の方々や芹田地区の方等にお集まりいただき、開発コンセプトややすめ方について意見交換を行いました。

「組合員にわかりやすいコンセプトが良い」「熱い思いを込めたものになりたい」「自然エネルギーの町にかほ市をアピールする材としてはどうか」「生産する時の電力に風車の電気を使えないか」などの意見があり、今後「夢風ブランド開發生産者連絡会（仮称）」を立ち上げて具体化を進めていきます。



翌日、3月23日（日）は、夢風とにかほ市の小水力発電建設候補地などの視察を行いました。



にかほ市は、鳥海山の恵みを受け水が豊かで自然エネルギー資源の豊富な地域です。にかほ市には今、18基の風車と水力発電、太陽光発電などがあり、この発電量は市内9450世帯の使う電力の150%にも達しています。

（左から 半澤・神奈川常務、重盛・埼玉専務、山本・千葉常務、大石・神奈川専務、後方は「夢風」）

